あなたと教区を結ぶ

2017年3月12日発行

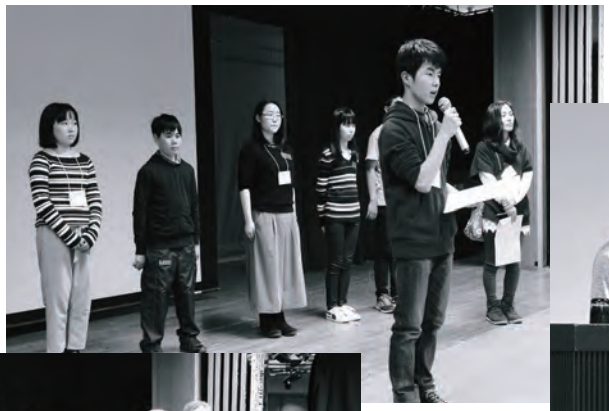
北海教区通信

2017　なきうさぎ号

第201号

日本基督教団　北海教区

第65回北海教区年頭修養会



もくじ

みことばに聴く　「北辺（ほっぺん）・ステップ・ジャンプ」　…1
伊藤大道（いとうひろみち）牧師（興部伝道所牧師・稚内教会代務者）

特集
「新しい支援制度を通して、地区・教区の宣教を共に考えよう」
～互いの礼拝を守り続けるために～　…2

幹事室より　…6

常置委員会報告　…7

各委員会から
革新部門委員会
年修自主プログラム　… 8
青年活動報告～雪下ろし（倶知安伝道所・手宮教会旧会堂）　…9
信徒のための宣教講座　… 10
連帯部門委員会　互いの礼拝を守り続けるために　…12
平和部門委員会　野幌教会・月寒（つきさっぷ）教会靖国キャラバン報告　…14
アイヌ民族情報センター　…15
性差別問題担当委員会　…16
第 65 回年頭修養会実行委員会　…17
東日本大震災支援委員会　年修自主プログラム報告　…18

編集後記・クロスワードパズルこたえ　…20

みことばに聴く

北辺（ほっぺん）・ステップ・ジャンプ

伊藤（いとう）　大道（ひろみち）（興部伝道所牧師・稚内教会代務者）

…とある北の地での日常のひとこま。

ご隠居「これ、牧師よ。
そんなに急いでどこに行くんだね。」

某牧師「あ、これはこれはご隠居さん。
本日もよいお日柄で。」

ご隠居「良い日柄じゃありませんよ。こんなに大雪が降っているというのに。こんな日に急いで運転したら事故のもとだよ。いったいどこに行こうとしてなさるのかね。」

某牧師「へえ、実はこれから、この興部から稚内教会に行こうとしてるところでござんすよ。あっしはこの通りおっちょこちょいなもので、今日も寝坊して遅刻しそうなんでさ。まったく面目ねぇ。」

ご隠居「そういえばお前さん、今は興部伝道所と稚内教会の牧師を兼任しているそうだね。そんな遠い教会まで行かなきゃならんとは。最近の教会は都会の方でも大変だそうだが、こういう地方だともっと大変なんだねぇ。キリスト教を広めるためには、やはりもっと人の多い都会で活動した方がいいんじゃないのかい。」

某牧師「いえご隠居。それはとんと見当違いってぇもんで。キリスト教ってのは元来地方を足掛かりにした宗教なんでござんすよ。イエス様もその宣教活動をガリラヤから始められて、ほとんどの時間を都会のエルサレムではなく、地方で過ごされたじゃあござんせんか。
当時のエルサレムから見たら、ガリラヤは北の辺境だったんでございましょうが、そこに神様の光が照らされることが、イエス様の福の本質を表してるんじゃぁねえかとあっしは思うんで。だから都会の教会ももちろん大切だが、地方の教会も決しておろそかにしちゃあならねえんでさぁ。それに地方の小さな教会だからこそ、互いに助け合い、連帯を強くすることができるんじゃぁねえんですか。そういう地方の教会の働きが全体を革新し、地に平和が訪れることにつながるんだとあっしは信じているんでございやすよ。」

ご隠居「なるほどねぇ。そりゃぁ確かにその通りだわな。いやぁこの年になってお前さんに教えられるとはねぇ。負うた子に教えられ、とはこういうことを言うんだねぇ。」

某牧師「え、あっしは大人になってからご隠居さんと出会ったから、子どもの頃に負われた覚えはないんでやすが。」

ご隠居「ばか。もののたとえだよ。まぁ地方の教会が大切だということはよくわかったが、それにしても興部から稚内まで 200 kmはあるんだろ。別にその地域を北の辺境と呼ぶわけじゃあないが、おいそれとは移動できない距離だよねぇ。」

某牧師「いえね、意外とそうでもねえんですぜ。ほら、昔から言うじゃあございやせんか。北の辺境だけに『北辺（ほっぺん）・ステップ・ジャンプ』ってね。」　おあとがよろしいようで。

イエスは、ヨハネが捕らえられたと聞き、ガリラヤに退かれた。そして、ナザレを離れ、ゼブルンとナフタリの地方にある湖畔の町カファルナウムに来て住まわれた。それは預言者イザヤを通して言われていたことが実現するためであった。『ゼブルンの地とナフタリの地、湖沿いの道、ヨルダン川のかなたの地、異邦人のガリラヤ、暗闇に住む民は大きな光を見、死の陰の地に住む者に光が射し込んだ。」そのときから、イエスは、「悔い改めよ。天の国は近づいた」と言って、宣べ伝え始められた。　（マタイによる福音書 4 章 12 節～ 17 節）

［ 教会案内 ］　興部伝道所（おこっぺでんどうしょ）　（道北地区）

主日礼拝　午前 10 時 15 分　　最寄駅　JR 宗谷本線名寄駅～名士バス興部

特集
「新しい支援制度を通して、地区・教区の宣教を共に考えよう」
～互いの礼拝を守り続けるために～

似顔絵：塩谷真澄（しおやますみ）

2016 年度の北海教区の関心事に、「無牧師教会の増加」、「小規模教会支援」が挙げられるでしょうか。

今年度、北海教区によって制度化に向けた取り組みがなされています。すでに地区委員長会議や宣教協議会で取り上げられ、協議が重ねられてきました（連帯部門のページをご参照ください）。

こうした機運の高まりを受け、常置委員会は「小規模教会支援検討小委員会」を設け、その実質化を目指しています。今特集では、尽力される小規模教会支援検討小委員会の方々に、それぞれの立場から次年度への展望をお聞きし、みなさんと分かち合いたいと思います。（広報委員長　木村拓己）

質問者：木村拓己（きむらたくみ）　（広報委員長、美唄）
回答者：原　和人（はら　かずと）　（小規模教会支援検討委員／宣教部委員長、手稲はこぶね・札幌富丘）
西岡昌一郎（にしおかしょういちろう）　（小規模教会支援検討委員／連帯部門委員長、旭川六条）
今多正行（いまだまさゆき）　（小規模教会支援検討委員／財務部委員長、札幌元町）
日向恭司（ひむかいきょうじ）　（教区幹事）

木村拓己

新しく「小規模教会を支援する制度」が教区で検討されていると聞きました。呼称が気になるところですが、ここで「小規模教会」というのは具体的にどういった教会を意味するのでしょうか？

原和人

「小規模教会」に明確な定義はありませんが、北海教区では「概ね現住陪餐会員 30 名以下」の教会に対して、開拓伝道資金の「給付金」や、牧師の赴任費用などの「援助費」を交付しています。

今回の新しいしくみも、実際にはそれと同等の規模の教会が対象になると思われます。ですが、この制度の目標は、「小規模教会」という数字の枠組みにあまりとらわれず、「様々な現実に即応するものでありたい」というところにあります。

そこで、今までは仮に「小規模教会支援」と呼んでいたものを、更に具体的に対象をわかりやすくするため「主任担任教師不在の教会への礼拝支援等」という名称にしようと考えています。

むろん同じ「主任担任教師不在の教会」とは言っても、財政力や、その他、実態はさまざまですから、そこには支援の必要性の度合いにはかなり開きがあるはずです。その中で、とくに優先度の高いと判断される教会に対する支援を着手していきたいのです。

この制度の中には、主任担任教師不在の教会はもちろんのこと、代務者に対する支援も含まれています。わたし達は数字だけで線引きをすることはせず、できるだけ個々の教会の状況に対応する制度として運用していきたいと考えています。

木村拓己

なるほど、今年度地区委員長会議や宣教協議会では総じて「小規模教会支援」という呼称が用いられていましたが、具体的には「主任担任教師不在の教会への礼拝支援」ということですね。

礼拝に重点があるという意味では、第四次長期宣教計画が掲げる「礼拝の喜びに生きる神の民」に基づく一つの実りと捉えることができますね。では、教区がこの支援策を設けることで、各個教会が抱える問題全体を解消できると考えていいでしょうか？

挿絵：村上風（むらかみれら）

西岡昌一郎

いいえ、この支援策によって、無牧師教会の問題が一挙に解決できるということではありません。そのための方策の一つと考えてください。この支援策の趣旨は、北海教区内でのさまざまな形での連携・協力によって無牧師教会を支えていこうとする取り組みを促すためのものです。

各個教会での頑張りはもちろんですが、それをめぐる各地区内での宣教協力、あるいは地区を超えたつながりなど、ありとあらゆる方法を組み合わせ、全体で無牧師教会を支えていこうとするところに、北海教区が財政的支援を行なおうというものです。

このためには、当該地区が果たす役割はとても大きいと思います。各個の教会の様子を一番把握しているのは、各地区（地区委員会）です。同じ代務体制をとっている教会でも、その代務者の働き方は、それぞれまちまちです。その中で、最も支援が必要と思われる教会を地区が的確に把握して、地区全体の了解のもと、教区の支援の必要を理解、共有することは大切です。

木村拓己

なるほど、地区と各個教会の連帯が非常に重要となるということですね。地区が一つの軸となることで、当該教会を始め、地区内で知り合い祈り合うことにとどまらず、相互顔を合わせる交流の活発化が期待できますね。

確かに道北地区の和寒伝道所・士別教会の礼拝、道南地区の江差伝道所の礼拝、また北見望ヶ丘教会、札幌北光教会、琴似中央通教会による置戸教会宣教協力という形で徐々にその具体例が教区内にも築かれてきました。

すでに代務者体制にある教会の中には、新得教会のように、千歳栄光教会が地区を超えて支援する形も見られますね。もちろん代務者体制の中、自分たちの教会を自分たちで守り礼拝をささげている教会の歩みも忘れてはなりませんね。

では、この支援制度は謝儀保障制度のように各個教会が教区に申請する手順と異なるのですか？

西岡昌一郎

謝儀保障制度の場合、当該教会が直接北海教区に申請をして手続きをとります。しかも謝儀保障制度は、あくまでも牧師を招聘している教会に適用されるものであり、無牧師教会は対象外です。今回の支援策にあたっては、各個教会が教区に支援を求める前に、地区委員会の了解の手続きをとることにしました。

それは、地区が「あの教会は教区から支援してもらえるから、地区が協力する必要はない。」と教区まかせになってしまわないためです。北海教区の第四次長期 （次頁へ）

西岡昌一郎

（前頁より）宣教計画の宣教のビジョンに、「互いの礼拝を守り続けるために」が掲げられています。またそのために「地区活動のいっそうの可能性を模索し、充実させて協力関係を強化する。」「地区を越えた多様な協力関係を模索し、実現する。」とあります。

このためには地区の果たす役割には大きいものがあります。地区においても無牧師教会に対してできる限りの手だてを尽くし、さらに地区を超えて連携できる道を模索しながら、その上で教区からも財政支援を求める、という二重三重の手立てをとって初めて、無牧師教会の礼拝は支えられていくのです。これもまた北海教区のミッション「礼拝の喜びに生きる神の民」のひとつの具体化だと思います。

木村拓己

なるほど、無牧師教会の実情に地区が共に寄り添って、自分たちのこととして考えて行くことが必要なのですね。しかし、地区内での協議を経て申請するとのことですが、教区財政もまた厳しさを増していると思います。期待が大きい反面、無牧師教会や地区の希望にどれだけ応えられるのかは未知数です。具体的にはどのぐらいの予算を組み、またどの程度の支援が可能なのでしょうか。

今多正行

「北海教区の互助は教職謝儀保障」というだけでは互助体制の輪に加わることのできない無牧師教会の増加とその長期化によって、その幾つかは礼拝を守り続けることにも困難を感じながらも、身を削って礼拝を守っている信徒、代務者、また説教者を送り出している教会の存在があります。

新たな支援策は、この最も厳しい状況を直視し、地区と教区が連携して、すべての教会の礼拝を守り支えて行くための援助に、教師が少ない故に未執行となる互助費を充てようというものです。ただし謝儀保障受給を前提に牧師招聘を模索している教会もありますから、予算額については財務部委員会でも慎重に検討を続けています。

現時点では、現状の教区分担金総額を増額せずに、宣教協議会に提出した従来の予算の互助費の枠組みで、(1) 謝儀保障費から (3) 援助費に 200 万円を移し替え、合計 260 万円を従来の「教師の赴任費及び退職金の補助その他」と合わせて運用しようと考えています。

具体的には、無牧師教会が説教者を招く場合には、交通費や宿泊費、説教謝礼等に対する援助として 1 回につき上限 5 万円、1 教会につき最大 6 回（2 ヵ月に 1 回程度）を想定しています。代務者やこれに準じた働きを担う者への謝儀援助には、月額 5 万円（年額 60 万円）を上限と考えています。

教区内全ての無牧師教会を支援するには十分とは言えない金額ですが、無牧師教会の礼拝を教会と地区・教区が連携して守っていく取組が開始されることは、人的交流や祈りの輪の広がりを生み、必ずや予算以上の豊かな実りをもたらしてくれることを期待しているところです。

木村拓己

宣教協議会では、代務者以外の説教者を探すことが教会にとって負担となっていること、無牧師教会の信徒の方々が申請しやすい形が求められていることが発言されていました。そうした情報共有や派遣する制度を教区が設ける予定はあるのでしょうか。

日向恭司

現在 (2017 年 2 月)、教区内で 12 の教会が主任担任教師不在の中で歩んでいますが、各教会・各地区で様々な工夫をして毎週の礼拝を捧げています。地区内の説教者派遣の支援、信徒による説教、代務者の先生が録音した説教、説教者のいない「分かち合い」の礼拝など、地区の力や信徒の力を結集して礼拝が捧げられており、そのような関わり自体が礼拝を豊かなものにしていると思います。

今回の新しい提案は、そこに教区による支援を加えることによって、他地区および教区全体を巻き込んで、さらに豊かなものにしてゆきたいという願いを形にしたものと云えます。その新しい仕組みが使いやすいものとなるための工夫も必要となりますが、当面は、北海教区が幹事制度を持っていることのメリットを発揮する意味で、教区幹事として各地区との連絡を密にして、当該地区以外の地区から、特に札幌地区からの説教者派遣が実現できるようにしていきたいと思っています。

木村拓己

今制度を設けたとして、なお残している課題はあるでしょうか。

原和人

1 月に行われた宣教協議会では「この金額では代務者の生活が成り立たない」というご意見もありましたが、確かにこれは教職謝儀保障のように、代務者や主任担任教師に準ずる働きを行う方々の生活を保障するという意味では、不十分です。

しかしこの新しい制度は、現在の謝儀保障を補完する目的ではなく、教会の礼拝への支援であり、それを支える各地区の連帯の業への支援として捉えていただきたいのです。

地区だけでは支えきれない部分を、地区を越えて教区全体で支えることができればと期待しています。

この制度をスムーズに運用できるために、どうぞできる限りのご協力をお願いします。

木村拓己

近年無牧師教会への支援が叫ばれ、今回はその具体的な応答について伺いました。早期にスタートし、支援を必要とする教会に応えたい思いがたくさん伝わってきました。

一つ一つの教会の礼拝が守られるために、地区活動の充実が求められていること、それらの働きを教区が支えようとする姿勢が感じられました。さらなる検討と可能性の模索を積み重ねつつ、教区総会に提案されることを願っています。ありがとうございました。

以上、教区が現在考えている支援の形を共有しました。次年度の教区総会においても、活発な議論がなされることを願います。

北海教区にある諸教会を互いに覚えつつ、特に無牧師教会を支え、心を費やしている方々を祈りのうちに覚えましょう。

幹事室より

北海教区幹事　日向恭司

●各種献金のお願い

今年も北海教区の宣教活動のために袋献金をお願いいたします。センター・ホレンコ献金と年頭初穂献金以外の活動は、全てこの献金のみを財源としている活動です。一人一人が献金の意義を確認してご判断の上、お献げ下さい。

洞爺湖教会宣教協力募金　　通年
ゆうちょ銀行　02700－4－005493
名義：日本基督教団北海教区宣教協力募金

東日本大震災支援活動募金　　通年
ゆうちょ銀行　19070－499431
名義：北海教区東日本大震災支援委員会

● 2016 年度の常置委員会日程

⑥ 3 月 21 日（火）午前 10 時 30 分～
※ 委員会報告書、各種の承認申請書は常置委員会の一週間前をめどにご提出ください。

●今後の活動予定

3 月 21 日（火）～ 22 日（水）
全道教会青年の集い　於：札幌元町教会
3 月 27 日（月）～ 29 日（水）
全道教会中高生春の集い　於：野幌教会
※ 時間、会費等詳細はそれぞれの案内をご覧下さい。

●今春の教師移動

旭川星光伝道所・美馬牛福音伝道所
辞任　佐藤待子（代務）
就任　齋藤麻実（星光主任・美馬牛担任）
齋藤 開（美馬牛主任・星光担任）
帯広教会
辞任　佐藤紀子（代務）
就任　井田博康（主任）
洞爺湖教会
辞任　石川宣道（代務）
就任　佐藤待子（主任）
札幌北光教会
就任　野田 祥（担任）

＊ お知らせ ＊

第 77 回北海教区定期総会

日程：2017 年 5 月 2 日（火）～ 3 日（水）

会場：札幌北光教会

※ 教会報告・委員会報告等は 3 月 24 日までに忘れずにご提出下さい。

2016 年度に教区幹事として訪問した教会

代務者の働きに感謝！

2016 年度（2017 年 3 月 5 日現在まで）、32 教会（含、伝道所）を訪問しました。年度当初は主任担任教師不在の教会が一時 16 教会となりましたが、現在は 12 教会。それぞれ代務者の教師を立てて教会の宣教活動を続けてきました。

代務者の働き方は千差万別です。教会員の人数や幼稚園などの附属施設の有無、近隣教会との距離、役員の構成（人数や年令等）によって、代務者に求められる働きが違うのです。2 ヶ月に 1 度礼拝と役員会を導いて下されば十分であるという場合もあれば、ほぼ毎週教会に通って主任担任教師と同等の働きを求められる場合もあり、牧師館に住んで教会だけではなく地区活動にも参加するなど主任担任教師と全く変らない働きを求められる場合もあります。礼拝の持ち方も、CD や DVD に録音・録画した説教を聴いたり、交替で信徒が証しをしたり、説教者を立てずに出席者同士で聖書の言葉の意味を話し合ったりと様々な工夫をして、礼拝の喜びを分かち合ってきました。そのような中で教会は「礼拝とは何か、」「教会とは何か、」「教師とは何か、」「宣教とは何か、」と大切なことを問い直し、答えを探る期間を過ごしました。それは単に教師が不在の期間を埋めるための方策ではなく、教師を迎えた後の教会の歩みをより力強いものにしていくための貴重な学びとなったはずです。そんな教会にとって大切な期間を、必要に応じて助言したり静かに見守ったりしながら、法的な教会の代表者として責任をもって下さるのが代務者の務めです。

4 月からは 3 つの教会で主任担任教師を迎えます。これからの歩みが楽しみです。　　日向恭司

常置委員会報告

北海教区2016年度第３回常置委員会議事録（抄）

日　時　2016年9月16日（金）13時34分～18時11分

場　所　北海道クリスチャンセンター301・302号室

出席者　久世そらち（議長・札幌北部）、原和人（副議長、宣教部委員長・手稲はこぶね、札幌富丘）、木村拓己（書記・美唄）、西岡昌一郎（旭川六条）、藤吉求理子（道北センター、名寄、士別）、井石彰（苫小牧弥生）、小西陽祐（余市）、小林あずみ（千歳栄光）、佐久間光昭（置戸）、相馬述之（札幌北光）、藤巻朋子（札幌元町）

欠席者　なし　　**陪席者**　日向恭司（教区幹事）

承認事項　事情により skype で出席する者があり、出席扱いとすることを承認。

審議事項

1. 第76回北海教区総会付託事項に関する件　**継続審議**
（1第77回定期総会開催場所並びに日程に関する件（議案第16号）
2017年5月2日（火）～3日（水）札幌北光教会
2. 札幌教会役員会への勧告の実施を求める件（継続審議）　**継続審議**
久世そらち議長より動向を聞き、課題を整理した上で審議した。
3. 宣教方針に基づく2017年度宣教活動計画案に関する件　**継続審議**
4. 2017年度教区歳入歳出予算案（付 負担金配分案）に関する件　**継続審議**
5. 2017年度教職謝儀基準改定に関する件　**継続審議**
6. 2017年度教団伝道資金申請に関する件　**継続審議**
7. 謝恩日献金の取り組みに関する件　**可決**
8. 元浦河教会の寺田憲英主任担任教師辞任承認申請に関する件　**可決**
9. 元浦河教会の五味一主任担任教師招聘承認申請に関する件　**可決**
10. 浦河伝道所の寺田憲英主任担任教師辞任承認申請に関する件　**可決**
11. 浦河伝道所の五味一主任担任教師招聘承認申請に関する件　**可決**
12. 北広島教会の米倉美佐男主任担任教師代務者辞任承認申請に関する件　**可決**
13. 北広島教会の菊地啓示主任担任教師招聘承認申請に関する件　**可決**
14. 真駒内教会の田中文宏主任担任教師辞任承認申請に関する件　**可決**
15. その他
・真駒内教会主任担任教師招聘申請に関する件　**可決**
・厚別教会会堂建築募金依頼に関する件　**可決**

協議事項

1. 2017年度日向教区幹事任期終了に伴う新教区幹事選任について
2. 小規模教会支援について

北海教区2016年度第４回常置委員会議事録（抄）

日　時　2016年11月18日（金）13時39分～20時00分

場　所　北海道クリスチャンセンター301・302号室

出席者　久世そらち（議長・札幌北部）、原和人（副議長、宣教部委員長・手稲はこぶね、札幌富丘）、木村拓己（書記・美唄）、西岡昌一郎（旭川六条）、藤吉求理子（道北センター、名寄、士別）、井石彰（苫小牧弥生）、小西陽祐（余市・skype にて出席）、小林あずみ（千歳栄光）、佐久間光昭（置戸）、相馬述之（札幌北光）、藤巻朋子（札幌元町）

欠席者　なし　　**陪席者**　日向恭司（教区幹事）

承認事項　事情により skype で出席する者があり、出席扱いとすることを承認。

審議事項

1. 第76回北海教区総会付託事項に関する件
（1第76回定期総会議事録承認に関する件（議案第17号）　**可決**
2. 札幌教会役員会への勧告の実施を求める件（継続審議）　**継続審議**
3. 宣教方針に基づく2017年度宣教活動計画案に関する件　**継続審議**
4-1　2016年度歳入歳出決算に関する件　**継続審議**
-2　2017年度教区歳入歳出予算案（付 負担金配分案）に関する件（継続審議）
5. 2017年度教職謝儀基準改定に関する件　**継続審議**
6. 宣教協議会開催に関する件　**可決**
1月10日（火）定山渓ビューホテル。
2017年度活動計画案、決算予算案および謝儀基準改定案（財務関連）、そして小規模教会支援に関する件の3件を議案とする。
7. 次期北海教区幹事候補者選任に関する件　**継続審議**
選考委員に西岡昌一郎委員、藤巻朋子委員、井石彰委員を選任した。
8. 小規模教会の支援に関する件　**可決**
原和人宣教部委員長（招集者）、今多正行財務委員、西岡昌一郎連帯部門委員長の3名で小規模教会支援検討小委員会を組織するとした。
9. 教団、常設・常設専門委員会等委員候補推薦に関する件　**可決**
10. 部落解放センター運営委員会委員および年金局理事推薦（教区より各1名）に関する件　**可決**
11. ホレンコ幹事推薦に関する件　**可決**
12. 2017年度春季教師検定試験受験者推薦に関する件（補教師／荒谷陽子）　**可決**
13. 2017年度春季教師検定試験受験費用援助申請に関する件（荒谷陽子）　**可決**
14. 手宮教会の小西陽祐主任担任教師代務者決定承認申請に関する件　**可決**
15. 真駒内教会の2017年度奨学手当申請に関する件　**可決**
16. 新発寒教会の教区開拓伝道資金長期借入申請に関する件　**可決**
17. 新発寒教会の教区開拓伝道資金長期借入金利子免除申請に関する件　**可決**
18. その他
・兵庫教区「北海教区宣教課題連帯献金」の使途に関する件　**可決**
兵庫教区の意志として、アイヌ民族情報センターと洞爺湖教会にささげることを確認しているが、内訳は北海教区に委ねられている。今年度の内訳については三役に一任することとして可決した。
・北海教区青年活動に関するお願いに関する件　**可決**
自主活動団体である「全道教会青年の会」の残金217,391円を北海教区の青年活動の積立金として納入することが報告され、可決した。

第 65 回北海教区年頭修養会
革新部門主催　自主プログラム報告

テーマ：「つながる喜び・献げる喜び」
講　師：中野久子さん（千歳栄光教会員）

「献金は交わり」

北海教区革新部門委員　清水和恵

「献身としての献金の意義を確認し、互いのことを覚えて支え合う教会を目指す」これは教区の宣教ビジョンとして革新の項に掲げられているものです。このビジョンをより具体化するために、1 月 9 日(月)、年修自主プログラムの時間に学びの時をもちました。

50 名が集まり、他教区の方々も多く参加されました。

テーマは「つながる喜び・献げる喜び」。講師の中野久子さん（千歳栄光教会員）は、ご自身の豊かな体験をもとに、テーマを深く掘り下げてお話しされました。印象的だったのは「献金は交わりです」という言葉です。

講演をお聞きして、元北海教区幹事の小西二巳夫さんの言葉を思い出しました。「献金なき連帯はありえない。それは絵に描いた餅。」

北海教区が大切にしてきたことは連帯です。わたしたちはつながるから献げることができるし、献げるからつながりが生まれます。そして相互のつながりの中で、喜びを分かち合うことができることを確認する集会となりました。

「年修自主プログラムに参加して」

小樽公園通教会　村住和子

今回の講演ではまず、北海教区の教会の分布図が示され、北海教区 63 教会のうち、無牧師教会が 12 との数字、点在する教会の立地場所における距離間などを確認。その上で、横とのつながり、教会間の意識的な支え合いが必要だと述べられました。そして、内向きではなく、他を思いやる気持ちや行為によって、逆に恵みを豊かに頂けるのだと。

苫小牧地区の各教会の「つながり、支え合う」事例から多くのことを学び、それぞれの置かれた地区で、何ができるかを考えさせられました。他教会への支援として、各自、毎月一杯分のコーヒー代を捧げる、奉仕の手伝いに行く、礼拝を分かち合うため牧師先生を送り出すなど、どれもこれも信仰の祈りから出た思いが詰まっています。

教区全体としては、所属する教会への献金の他に、教区献金袋への献金にも言及されました。一人ひとりできることはわずかでも、集まれば大きな力になると！

発題後の参加者の感想の奥に、「びしっと背筋が伸びる思い」「各教会間の連帯奉仕の意義を強く考えさせられた」「中野さんの信仰者の姿勢に敬意を覚える」などなど。発題者の中野さんのご苦労に感謝致します。

今回の中野久子さんの講演要旨をご用意しております。内容について詳しく知りたい方は、要旨の文書をお送りいたします。ご希望の方は北海教区事務所までご連絡ください。

青年活動報告

宣教部革新部門
わかもの担当

★倶知安伝道所・手宮教会旧会堂★

雪下ろしに行ってきました！

２月４日に倶知安伝道所、１８日に手宮教会旧会堂、両教会の雪おろしを行いました。両教会の雪おろしには、札幌地区教会青年協議会の若者たちの働きが欠かせませんでした！

倶知安、手宮、両教会の皆さんも、青年の力に励まされ、新たな希望を与えられたようです。そして、青年たちもまた、それぞれの教会に、温かい交わりとおいしい昼食による大歓迎を受けて、新たな出会いと恵みを与えられる機会となりました。

このようにして、青年たちが今、教区内で「自分たちで何かしたい」「自分たちにできることは何か」と考えながら、動き始めていること、皆さんにもぜひ喜びを持って知っていただきいと思います。３月には、「全道教会青年の集い」が企画されています。今年度から新しく始まるプログラムです。第１回となる今回の集いでは、わかものが普段集っている「教会」とはどういった集まりなのか。なぜ「礼拝」を毎週守っているのか。当然のように繰り返していることについて学び、分かち合いたいと願っています。

ぜひ、おぼえてお祈りいただき、それぞれの教会に対象の年齢の青年がいましたら、ぜひ送り出してください！

数十キロはありそうな雪塊も、若い力で次々落とします！

みんなで楽しく雪下ろし。交わりに笑顔がこぼれます。

手宮教会で作業後のワンショット。疲れたけど楽しかった！

高所での作業は少し怖かった、だそうです。

＊第１回全道教会青年の集い＊

日　時：３月21日（月）～22日（火）　場　所：札幌元町教会
テーマ：「再会～わたしたちをつなぐもの」
対　象：18～25歳ぐらい　参加費：3,000円
問合せ：高濱心吾牧師（札幌元町教会・実行委員長）

信徒のための宣教講座報告

講　師：関田寛雄さん（神奈川教区巡回教師）
日　時：二〇一六年十一月三日（木・休）～四日（金）

信徒のための宣教講座に参加して

苫小牧弥生教会　佐伯嘉美

「信徒のための宣教講座」には、以前から参加したいと思っていましたが、機会を逃していました。念願かなって初参加となりました。

第１回目プログラムで関田寛雄牧師から「説教の準備」の講義を受けて、自分なりに賢くなったかなという感じを受けました。いままで地区共同牧会活動で、地区内の教会や自分の所属する教会でメッセージを何度か経験したことがありますが、その度に聖書の読み方、使い方に悩んでいました。この講義で聖書の読み方、説教の構成の方法を聞き、自分なりに確立できたことは大前進でした。

また、証と説教の違いが鮮明でなかったことも、悩みの一原因でした。その違いは「証は聖書で生かされた自分を示すこと。（自分個人がテーマ）。説教は、生きている聖書を語ること。（共同体へのメッセージ）」と教えられ、もやもやしていた気持ちがこんなにいっぺんにすっきりしたことはありませんでした。

大収穫の１日目を終え、２日目の朝はすっきり目覚め、朝の祈りの進行を担当させていただきました。いつも自宅で連れ合いと２人で「日毎の糧」によって聖書を読み解説を読んで、１日毎交替で祈り合っていましたから、その方式で進めさせていただきました。たくさんの人で祈り合わせることは、どんなに心強く、神様が一緒にいてくださる確信が持てるから不思議です。

２日目のメインプログラムである説教演習は、永田克自（手稲はこぶね教会）・清野量（滝川二の坂教会出席）兄弟の実践でした。事前に聖書箇所が与えられていたようで、関田牧師の講義を聞く前に二人とも自分なりの準備をしていた様子でした。それぞれ持ち味を生かした説教でした。二人の説教について、参加者が一人ひとり感想、長点、欠点を出し合ったことで、各々が相当勉強になったことと思います。この経験を生かして機会があるごとに挑戦してみたいなと思いつつ帰路につきました。

関田寛雄牧師、宣教部革新部門委員の皆さん、ありがとうございました。この講義の計画は、近い将来にはますます必要なものとなっていくと思慮されますから、続けて計画･開催することを切に望みます。

信徒のための宣教講座１日目

月寒教会　島田久美子

開会礼拝の原和人(手稲はこぶね教会・札幌富丘伝道所)牧師の説教は「ゆとりの時間」という題で、テキストはルカ福音書 10 章 38～42 節でした。私達はつい、自分がやらなければと思い、忙しくしてしまいます。しかし、だからこそ、神の言を聴く「ゆとりの時間」が必要ではないか。自分のためでなく、他者のための祈り、他者のための時間をもつことが大切だということが私達に知らされました。

次に、関田寛雄先生より、聖書を深く読み込むための指針を講義していただきました。テーマは「説教のために聖書をどう読むか」です。大きく５つのポイントが挙げられました。1 つ目は説教のためのテキストは、聖書と同時に、それを聴く聴衆で、聖書からはキリストにおける神の恵みの視点をもち、聴衆からはキリストにおける赦しと癒しの視点を持つことです。２つ目は、聖書解釈における方法で、文献的・歴史的・批評的方法で客観的に聖書が伝えようとするものを探っていくことと、正典的・実存的・読解的方法で、自分にとってのみ言と出会い、行間に隠されたものを想像力を持って読み取ることです。3 つ目は、聖書使信の黙想について、聖書箇所の選択も重要で、聖書の一部だけでなく前後の流れを読んでとらえること、そして使信を明確にする言葉について知らされました。4 つめは説教における聖書使信の展開で、まず、み言に打たれるまで読み込み、自分だけでなく共同体にとっての福音を意識して、自分の納得したことを自分の言葉で、理解してもらえるよう生活に結びつく話をしていくことです。5 つ目に具体的例証として関田先生がルカ福音書 19 章 1～10 節からお話してくださいました。

講義の後、それぞれ今日指定されたローマの信徒への手紙 12 章 1～2 節と向き合い、ポイントをまとめ、グループ内で分かち合いました。そこでは、聖書が、それぞれの置かれている場や、考え、視点、経験などの違いを持っていることで、こんなにも豊かにメッセージを与えられるのだということに改めて気づかされました。

夜は、藤吉求理子牧師(道北クリスチャンセンター)の準備された自由参加のワークショップ。「お人好しさん」という劇をみんなで演じてみました。教会で頼まれる仕事をすべてことわることができず、つぶれてしまう「お人好しさん」を直に感じた私達は、その後の分かち合いで、教会の役割や、ひとりひとりの弱さと、一緒に支え合う人たちがいることなど、様々な想いを抱き、この劇の結末に新しいストーリーをそれぞれ思い描くことでしょう。

一日の最後は祈りの時。後藤二子さん(札幌北部教会)が優しい声で、荒井良二作「きょうというひ」の絵本を読んで下さり、この一日を想い起こして、神様に 10 個のありがとうの言葉、祈りをそれぞれ綴りました。

神様は私達に、いつも新しい一日、新しい出会いを与えてくださいます。み言と向き合わせていただき、心を揺さぶられた恵みに感謝し、明日への望みを抱きます。この学びと祝福の機会が来年も与えられますように…。

祈りに覚えてください

革新部門わかもの担当からのご案内

「第 45 回全道教会中学高校生春の集い」

日時：3 月 27 日(月)～29 日(水)

会場：野幌教会

テーマ：「１％にできること　～99％のひとたちへ～」

「互いの礼拝を守り続けるために」

北海教区のミッション「礼拝の喜びに生きる神の民」を目指して

無牧師教会が増加する中で

長年、北海教区では「教職謝儀保障制度」によって、小規模教会が牧師を招聘してきました。1990 年代には、ほぼすべての教会で牧師が招聘されて宣教活動が行なわれました。これによって、その時期、他教区の教勢が下がり始めていた中、北海教区全体の教勢は下がらずに維持されていました。しかし、その後、2000 年代に入ると、北海教区では徐々に無牧師（主任担任教師不在）の教会が増え始め、あわせて教勢も下降し始めました。

一口に無牧師教会とは言っても、二通りあります。ひとつは後任牧師の招聘に時間がかかり、やむなく代務者体制となる場合と、もうひとつは、教会の財政がとても厳しくなって牧師招聘を断念せざるを得ない場合です。

従来の教職謝儀保障制度を活用する教会は、2016 年度は 9 教会にとどまっています。この数は一時期の 15 教会程度からすると、大きく減少しているのですが、その分、無牧師教会が増加しているということを意味しています。（現行の教職謝儀保障制度では無牧師教会はその対象にはなりません。）

現在、教区内の無牧師教会は、道北地区（10 教会）で 6 教会、道東地区（7 教会）で 4 教会、 後志地区（7 教会）で 1 教会、苫小牧地区（8 教会）で 1 教会、道南地区（7 教会）で 1 教会、合計 13 教会です。一方、道央圏（石狩空知、札幌）には、無牧師の教会はなく、特に道北、道東の教会に多いのが分かります。しかも、これらの中には、当分、牧師招聘が困難な教会がいくつも見られるのです。これらの教会において、毎回の礼拝を信徒たちだけで守り続けて行くには、大きな重荷が伴うことは間違いがありません。

代務者を送り出す教会も増えています

これに加えて、無牧師教会が増加すれば、その教会に自分の教会の牧師を代務者として送り出す教会も増加するという現実があります。多くの代務者は、月に一度、もしくはそれ以上の頻度で、自分の教会を留守にして代務教会に出かけます。留守になった教会では、他から礼拝説教者を迎えるか、信徒たちで礼拝を守らなければなりません（信徒証

言、DVD や録音などによる説教)。実情としては、信徒説教による礼拝は回数にも限界があります。同じ地区内の教会から説教者を送ってもらえればよいのですが、その地区内で無牧師教会が多いと、説教者の確保はかなり困難となってしまいます。たとえ説教者を確保できても、特に遠隔地にある教会にとっては、謝礼や交通費、宿泊費支給のための経済的な負担が大きくなります。札幌地区以外では牧師の数そのものが少なく、説教者派遣にあたっての融通が効きにくいのです。その点で、札幌圏の教会担任教師、教務教師、無任所教師、隠退教師が、他地区の無牧師教会を訪ねて、礼拝を応援することの意義は大きいはずです。また教職だけではなく、信徒説教による応援も可能ではないでしょうか。

現在、北海教区では、財政的に困難を覚える無牧師教会や、代務者を送り出している教会には、一定限度、このような礼拝応援を担う説教者のため交通費、宿泊費などを支給することに教区からの支援ができないか、これまで意見の聞き取りを行い、２０１７年度教区総会への議案化に向けて迅速かつ丁寧な検討が常置委員会、宣教部において行われているところです。

連携して、支え合うことを促すために

この考え方は、北海教区内の諸教会がお互いに連携して、無牧師教会の礼拝を支え合おうとするところに、教区が財政支援をするというものです。もちろん、この支援だけで無牧師教会の問題が一挙に解決するわけではありません。しかし、厳しい時代状況の中、困難を抱えて苦闘している無牧師教会を孤立させることなく、教会・地区を超えて連携して支え合おうとする取り組みを促すために、教区としての新たな支援策を講じることは重要なことだと考えています。

礼拝の喜びに生きる神の民が集められ、各地でキリストの体が豊かに働き続けていくために、これまで築かれ続けてきた北海教区の連帯の姿を証ししたいものです。

士別教会が代務体制になって最初の礼拝の様子。地区内諸教会からの応援出席もあり、大変豊かな礼拝となりました。

置戸宣教協力の一環として行われたコンサートの一コマ。毎年、札幌北光教会では、牧師を目指す荒谷陽子さん（置戸教会宣教主事）の研鑽として説教機会が設けられています。

靖国キャラバン　野幌＆月寒

２０１７年のはじめ、野幌教会と月寒教会にお願いして、平和部門委員会の靖国キャラバンを受け入れていただきました。両教会共、発題は鈴江英一委員。月寒教会では、教会の宣教委員会と共催での学習会となりました。
以下は二つの教会での鈴江委員の発題を要約したものです。

野幌教会　有事となれば靖国神社―そして大嘗祭

礼拝説教「バベルの塔」(佐藤紀子委員)

アメリカの政権が変わって日本はどうなるでしょう。トランプ占いではありませんが、安倍政権の方向からすると日本の防衛力強化は必至のようです。靖国問題はどうでしょう。オバマ政権のように、第2次大戦を肯定する靖国神社(遊就館の展示も)そのものに批判的で、安倍晋三首相や稲田朋美防衛相の参拝に対したように牽制するでしょうか。

年末、稲田防衛相は、就任以来の念願であった靖国神社に参拝しました。そこで＜未来志向で日本と世界の平和を築きたいと思って参拝した＞と説明していますが、同氏の持論は、「靖国神社というところは不戦の誓いをするところでなくて、『祖国に何かあれば後に続きます』と誓うところでないといけないんです」(『WiLL』2009年9月号)です。いまやこの人が防衛相となり、南スーダンに自衛隊員を派遣しています。新たな戦没者の発生を恐れます。防衛省は、東京の新宿区市ヶ谷駐屯地に殉職自衛官の追悼施設〝慰霊碑地区(メモリアルゾーン)〟を造っています。無宗教の追悼施設で、戦後の殉職自衛隊員のためのものです。戦前の戦没者は対象外です。

施設が整備された2007年、「神社新報」の論説は、＜メモリアルゾーンはあくまでも平時の任務遂行中、不幸にして職に殉じた自衛隊員を追悼する施設。靖国神社は戦争といふ国家の非常時に国のために尊い一命を捧げた人を祀る施設。自ずとその性格が異なる＞と。有事となれば靖国神社です。安倍首相なら、有事の際の犠牲者が現れた場合、靖国神社への参拝をもはや躊躇しないでしょう。

そして大嘗祭。政府は、大嘗祭を来年2018年11月に挙行すると言います。大嘗祭は、神道儀式です。皇室の私的行事のはずですが、それを戦後でも国費で行ったのが、現天皇の場合です。再び政教分離違反にならないよう監視が必要です。(1月29日　学習会参加30人)

月寒教会　礼拝から社会へ、社会から礼拝へ―聴き合うみ言葉、向き会う社会―

教区第４次長期宣教計画(２０１４年度～２０２４年度)は、「礼拝の喜びに生きる神の民～革新・連帯・平和～」を掲げました。この「革新」「連帯」「平和」はそれぞれバラバラにあるのではなく、つながっています。しかも三つは双方向の矢印で結ばれています。「平和」は、「礼拝から社会へ、社会から礼拝へ」です。これは礼拝を守り続け、礼拝によって新にされて社会の問題に向き合い、その結果、礼拝もまた新にされて行くという循環が起こされます。

靖国問題は、教会・教区の社会への関心を広げ、礼拝←→社会の循環をもたらしました。たとえば＜真の神への礼拝が妨げられる。偶像礼拝を強要される＞として、靖国神社の国営化反対に立ち上がりましたが、他宗教との協同行動の中で、お互いの信仰を尊重しながら行動で一致することを学びました。十戒の第二も深められたのではありませんか。

社会の問題に向き会うとき、礼拝もまた語るべき内容を変えて来ました。かつて教会は＜キリスト教への理解無くして日本の民主化は育たない＞と言っていましたが、いまや＜地の塩＞として、たとえ表だって見えなくても、いつしか社会が変わっていくことに寄与する存在になっているのではありませんか。

教会が日本の社会で、有力ではありませんが、ユニークな存在として社会に根付いています。どっぷりとつかっていませんが、社会に埋没せず、＜世の光＞の役割をはたそうとしています。そのとき、礼拝は、福音が新たに宣言される、また、そうせずにはおられない礼拝となるのではないでしょうか。もしひとが声を挙げなければ、「石が叫びだ」(ルカ19：40)す、その石でありたいと思います。(２月１２日　参加２５人)

アイヌ民族情報センター

アイヌ遺骨とＤＮＡ鑑定にまつわる問題

国や研究者の願望とアイヌ民族の自己決定権

北海道大学をはじめ、全国の十二大学に個体ごとに特定出来るご遺骨が１６３６体あり、個人の特定特定ができないバラバラの遺骨が５１５箱あると文部科学省の調査(２０１３年)で明らかにされました。その後も、調査がずさんだったことで２０１６年８月に再調査を行いました(結果は未確認)。さらに、国内の博物館、研究施設にも遺骨があることが判明し、遺骨の数は増えています。

今回、問題にしたいのは、６大学に「保管」されていた「個体ごとに特定できない５１５箱」についてです。東北大(1)、新潟大(17)、東京大(6)、大阪大(2)、天理大学(5)に、北海道大が４８４箱。箱の大きさは各大学により異なるので何人の方の遺骨かは不明。勝手に盗掘して研究材料にし、ずさんな「管理」と「保管」の結果として、個人特定が不可能となった事に呆れると共に怒りを覚えます。これらの大学は、まずは謝罪をするべきです。バラバラにされたご遺体をアイヌ民族側は元に戻せと要求していますが、当然の主張でしょう。

過日の北海道新聞に、保管されている５１５箱の遺骨に対し、「２０１９年度までに骨学的に同じ人のものであるかどうかを確認」し、「一体化が難しい場合に限り、アイヌ民族の同意を得てＤＮＡ鑑定の活用も検討する」(12/28 付)と方針を出したと記載されていました。

しかし、将来的にＤＮＡ鑑定をするとなると、多くの問題があります。まず、バラバラな部位の中には「個体として特定出来ているご遺骨」の一部が混入されている可能性があるでしょうから、すでに個体ごとに特定出来ているご遺骨も鑑定するということになりかねません。また、鑑定のためにご遺骨がさらに傷つけられることになります。ＤＮＡの保管や管理の倫理も整理はされていませんから、遺伝情報をそっくり他の研究に流用される可能性も多いですし、鑑定によって「遺骨承継者」に返すことが出来るようなことが述べられていますが、その場合、今、生活しておられるアイヌ民族の方達のＤＮＡ鑑定も求められる事になります。

これらの問題から、遺骨の再度の研究に反対し、もとのコタン(集落)の土に還すべきだと遺骨返還訴訟原告の小川隆吉さんらは主張します。

遺骨を「研究資料として供する」という決定は北海道アイヌ協会の理事会で決定されたものだとのこと(第１８回アイヌ政策作業部会議事)です。しかし、その部会での会議録でも、「理事会の決定は会員全員の一致ではなく怒るアイヌがいっぱい出て来る」との意見も出るほど疑問の残るものであり、さらには、アイヌ協会の会員ではない約八割のアイヌの方達、もっと言うと、自らをアイヌと明かされていないその何倍もの方達の意見を聞いていない、すなわち、一方的過ぎるという問題があります。

国のアイヌ政策を推進するために内閣官房につくられたアイヌ政策推進作業部会のメンバーには、『ＤＮＡで語る日本人起源論』(岩波現代全書)の著者であり、国立科学博物館人類研究長の篠田謙一氏が名を連ねています。日本のＤＮＡ研究の第一人者が最初から入り込んでいるのです。

研究者が欲しがっているアイヌ民族のＤＮＡと、アイヌ民族の権利との問題は、深刻な問いを投げかけています。(アイヌ民族情報センター

主事・三浦忠雄)

センターの活動を支えて下さい！！　目標１５０万円

アイヌ民族情報センターは、遺骨返還の協力やアイヌ民族の権利回復のために幅広い活動を行っています。活動資金が大変、不足しております。どうぞ、お祈りとお支えをお願いいたします。

性差別問題担当委員会のページ

エッセイ 「物思いの舞台袖」

木村幸（きむらゆき）（美唄教会）

十代のはじめ、児童劇団でお芝居の稽古をしていた頃のこと、年配の演出家にため息をつかれました。「おまえは、女の役が、下手やなぁ…。」公演を一つ終えた後、私の演じていた女の子の役が、男の子の役として脚本丸ごと書き直されました。以降とてものびのびと演技ができたので、演出と脚本の方にとても感謝したのをよく覚えています。その後も演劇活動をする中では、もっぱら男の子の役を望んで演じていました。

＊　　＊　　＊　　＊

いま私は実生活の中で、妻の役と母の役を務めていますので、女性の役がずいぶん板についたもんだと自分でも思います。しかし演じるのがうまくなっただけであって、性別が女性だという事実と、自分が自分であることとの間には、どうにも距離があるように今も感じています。すると心が男性なのかといえば、そういうわけでもありません。もし心の性を問われるなら、「中性です」と答えるか、乱暴に言えば「どっちでもいいです」と答えるでしょう。

＊　　＊　　＊　　＊

私たちは誰もが、生まれもった体の型によって男性か女性かの役を預かり、成長する中でその役作りのノウハウを刷り込まれていきます。そうした教育を徹底されて、いずれかの性役割を演じるようになってゆくのですが、それぞれが望んでその役をいただいたわけではないので、モチベーション（動機付け、意欲）は個々に違いますし、どうしても得手不得手があります。

＊　　＊　　＊　　＊

生物として男性か女性の機能を有していること、機能に伴う能力の差異や、考え方・行動パターンの違いがあることは事実です。しかしそうした区別に身も心も忠実であることが、人間として創り主に対する従順なのでしょうか？すべての人が“男らしく”“女らしく”あるのが、正解の生き方なのか。あるいはそれは人の描いた偶像なのかもしれません。ありふれた男女像を演じるよりも、自分だけに与えられた生と性を追求し、心底からそれを寿ぐことのほうが、ずっと勇気が必要で、もっと難しいように思われるのです。

＊　　＊　　＊　　＊

私は自分の心に性別を定められません。社会の中で散々性別と役割に縛られているのだから、せめて心くらいは、そんな大雑把な仕分けから自由でありたいと願っています。性別がどうあれ私は私しかいなくて、あなたはあなたしかいない、というのが人との出会いと付き合いの根幹ではないでしょうか。まだまだ迷い、悩みつつですが、自分らしい生き方を模索し続けるつもりです。

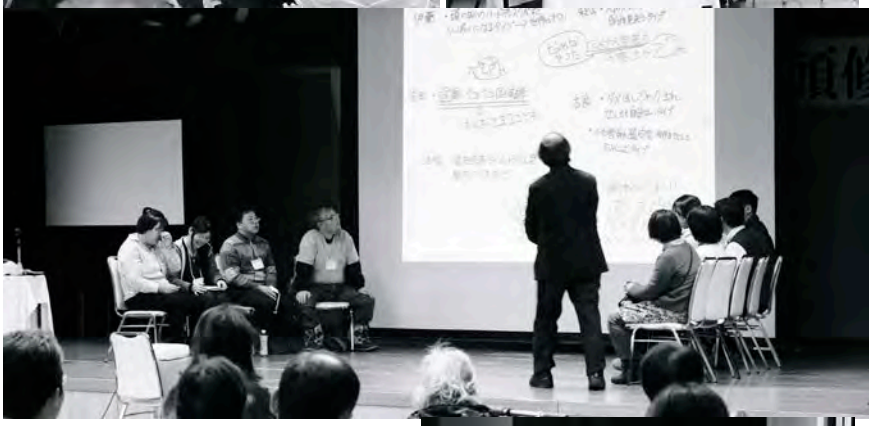
お知らせ　★キャラバンを呼んでください！あなたの地域をご訪問します♪

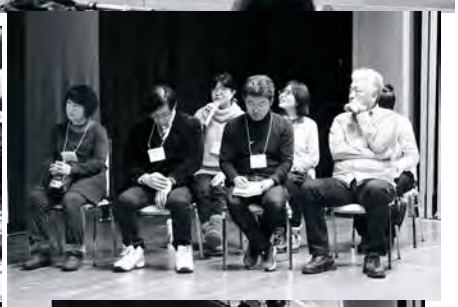
★献金のお願い　2016 年度献金目標 30 万円

「第 65 回 北海教区年頭修養会」報告

「年修で発見があったでしょうか?」

年修副実行委員長　石川宣道





2017 年の年頭修養会は苫小牧地区が担当しましたが、年修のような大規模集会を収容するホテルが恒例の洞爺湖には無くなり、1 月 9～10 日定山渓ビューホテルを会場に行いました。参加者は 377 名でした。

高齢化や会員の減少を意識せざるを得ない教会の実情ですが、元気の出る年修にしよう、参加して良かったと何か土産話のある年修を作ろう、参加者を通じて各教会に苫小牧地区からのメッセージを届けたいと準備しました。

今回の主題は「降りてゆく教会」～受けとめる、考える、発見する～とし、浦河伝道所会員であり、べてるの活動を立ち上げ担って来られた向谷地生良さんとべてるメンバーを中心に、参加された皆さんと一緒に発題をいたしました。

私個人の心配はグループワークに戸惑い参加しづらい方も居られるのでは？と思っていましたが、「処方された飴袋」をきっかけに、どこも和気あいあいと話されていた事にホッとしました。どうかこれからも話す機会を皆さんの教会で作ってください。会を重ねると、心がさらに開からていくでしょう。

向谷地さんの「解決はしなくても解消する」との一言が心に残っています。今までの生き方を降りることは難しくても、肩の荷がおりる安心感と、教会の交わりの喜びを改めて体験していただけたと思います。

子ども達は、更にもう一つのオリンピック「パラパラリンピック」に参加しました。ゲームや工作に、大きな子達が小さい子らへ沢山力を貸してくれました。感謝です。

神様からいただいた 2 日間の恵みが、皆さんの教会で、また生活で活かされますようお祈りします。

北海教区
No. 20　2017年3月
東日本大震災支援委員会ニュース

東日本大震災支援委員会年頭修養会自主プログラム報告と展望

講演会の報告　～震災という出来事を基軸として～

札幌元町教会　高濱心吾

まさに、「光陰矢の如し」の言葉の通り、2016年が終わり、新しい2017年を迎えました。今年も、苫小牧地区の皆様による備えによって定山渓ビューホテルを会場に年頭修養会が行われました。

わたしたち震災支援委員会は、自主プログラムの時間をいただいて、他教区から参加してくださった、村谷正人（むらたにまさと）牧師（奥羽・大船渡教会）、中井利洋（なかいとしひろ）牧師（東北・仙台東教会）、大林健太郎さん（東北・石巻栄光教会）、柴田信也牧師（東北・被災者支援センターエマオ）4名の方々から、震災という出来事を基軸として、「過去・現在・未来」についてのお話をしていただきました。まだまだ途上にある復興への道のりを感じさせられる言葉を聴く貴重な時間を過ごしました。

― 被災地の今を聞く ―

真駒内教会　石井美雪

2011年3月11日の東日本大震災の発生から6年目を迎えようとしている今、被災地と距離を隔てた場所に住み、伝わってくる報道も復興が進んでいるかのような内容に変わりつつあり気がかりでした。今回、4名の方々から現地での実情を聞く貴重な時間を過ごし、思いをあらたにしました。

大船渡教会の村谷正人先生は、住宅や堤防の復興工事が進み、生活が大きく変わっていくなかで起きている問題、心が立ち直っていけない人の孤立、孤独死の問題についても話されました。そして、教会は待つだけでなく出かけて行って一緒に作業をするなどのお話から一歩前へと踏み出す大切さを教えられました。

石巻からは大林健太郎さん（石巻栄光教会員、「シャロームいしのまき」理事長）。初めに3月11日の津波発生時のＤＶＤを見せてくださいました。建物の屋上から撮影された映像は、津波のとてつもない速さ、松林がガーッと消えていく様、逃げる人、大型トラックを巻き込む津波。街が消えました。私は体が硬くなりました。

この石巻で、震災の一年前から、浦河・「べてるの家」に学び、精神障がいを抱える当事者が主人公になり苦労を語り合うミーテイング・当事者研究を始めていました。津波の被害を受けながらも諦めずに続けてきました。復興にこぎつけた地元企業の旧仮社屋が提供されて、地域の活動支援センター「べてるの風」を開設するために、歩みが始まっています。私たちへの支援の呼びかけは、障がいの有無にかかわらず、復興への期待と落胆に翻弄されている人々が主人公になり、生き辛さから生きやすさへ、地域のコミュニケーションの場として活動してゆきたいという願いに期待し応援したいと思います。

仙台東教会の中井利洋先生は、被災直後、神を賛美できない礼拝から教会が神の国になっていった経過を話されました。その日歌われた讃美歌「美しい大地」に因み、震災記録「美しい大地の行方」としてまとめているとのこと。書くことで力を得た人、書くことができなかった人。書かれた記録、書かれなかった記録のうしろにあるものにも心を留めていきたいと先生は短くお話しされました。難しい問いかけです。

東北教区被災者支援センター「エマオ」からの現地報告は柴田信也さん。2017年3月で日本キリスト教団の支援は終了することが決定し、その後は東北教区が支援を続けるとのことです。親子保養プログラムのお手伝いをとおして子どもたちの様子、お母さんたちの気持ちを聞かせてもらえる機会があり、そこでは保養プログラムの継続を願う声があがっていました。なかでも、放射能問題支援対策室「いずみ」が行っている甲状腺エコー検査は、子どもたちの「いのち」を守るために大切です。

4人の方々の報告をとおして感じたことは、見えないものが見えるように。聞こえないものが聞こえるようにという願い。苦難を力に。私たちが応えていく覚悟、忘れないという思いを再確認する機会となりました。

震災支援委員会のこれから

震災支援委員会委員長　久世そらち

東日本大震災が起きてから６年になります。この間、北海教区では「東日本大震災支援委員会」を設置し､「被災地にある教区・教会の要請に応える」「地域のための教会の働きを支援する」との方針に基づいて、さまざまな支援活動にあたってきました。必要とされる支援の内容は時間の経過と共に変化していきますが、現地教区（とくに奥羽教区・東北教区）と連絡をとりながら、緊急募金・現地へのボランティア派遣・放射能被害地域からの短期保養プログラム・現地へのスタディツアー・教区行事への招待などを実施して来ました。

２０１７年度以降、現地教区では、支援の体制が大きく様変わりすることとなっています。

東北教区放射能問題支援対策室「いずみ」は、アメリカの教会からの期限付きの指定献金によって支えられてきましたが、２０１６年にその期限が終了したことによって、組織や活動の縮小を余儀なくされています。とくに、これまで「いずみ」が北日本三教区と協力して実施してきた短期保養プログラムの継続があやぶまれています。

また日本基督教団の東日本大震災救援対策本部も２０１６年度いっぱいで活動を終結することとなり、現地への人材派遣・資金援助などの働きはこの３月で終了します。これにより、これまで被災地へのボランティア活動の拠点となってきた東北教区被災者支援センター「エマオ」は、規模・活動を大幅に縮小せざるを得ません。

教団の救援対策本部は、地震で損傷した教会の会堂・牧師館などの補修・再建のための資金の給付および貸付を実施してきました。該当する教会の補修・再建工事はほぼ完了しましたが、教団からの借入金の返済に困難を覚えている教会がいくつもあります。そうした教会への今後の支援は各教区に委ねられることとなっています。

東北教区では、「エマオ」「いずみ」の活動をなおも継続することとしていますが、そのための資金の確保が大きな課題です。また奥羽・東北・関東の各教区では教団貸付金の返済のための支援をも呼びかけています。

北海教区東日本大震災支援委員会では、こうした各教区の働きを共に担うために、今後も支援献金をよびかけていくこととしています。献金を用いて「エマオ」「いずみ」の活動への協力・支援を継続し、とくに短期保養プログラムの実施のための資金に当てる計画です。また、各教区を通じて教団貸付金返済への協力も行っていきたいと考えています。その他にも、現地の課題をわかちあう活動を行っていきます。

東日本大震災は、けっしてまだ終結したわけではありません。これからも、祈りをささげ、重荷を共に担っていきましょう。

クロスワードの答え

1 A ソ	ま	2 つ	■	3 せ	ん	4 B ロ
ー	■	5 め	6 と	ろ	■	う
7 す	8 み	■	お	■	9 り	か
■	10 そ	う	せ	い	き	■
11 す	か	■	ん	■	12 し	13 お
も	■	14 き	ぼ	15 う	■	で
16 C モ	だ	ん	■	17 み	と	D ン

A	B	C	D
ソ	ロ	モ	ン

当選者２３名の方は、今年（2017年1月）の年頭修養会で発表されました。

編集後記

新しい年が始まったが季節は未だ冬、北海道は雪の中での生活を余儀なくされている。地元民が少々うんざりしている雪を求めて、沢山の外国人観光客が訪れている。ありがたい事だし、あらためて自然の情景に感謝する。

ふと思い出した。福島の原発事故の処理は終わっていないのだ。見えないものにも思いをよせて春を迎えたい。

（倉本真理）

広報委員

木村 拓己　（美唄教会・委員長）
髙濱 梨紗　（札幌元町教会・書記）
亀岡　徹　（島松伝道所・会計）
倉本 真理　（札幌富丘伝道所）
阪口　孝　（倶知安伝道所）
高橋 雅之　（札幌北光教会）
難波 真実　（無任所教師）
丸山 澄夫　（西札幌伝道所）

クロスワード

野沢 尚央　（北海道クリスチャンセンター）

レイアウト協力

日向 恭司　（北海教区幹事）

北海教区通信をお読みになっての
ご意見ご感想などをお寄せください

koho-edit@hokkai-net.jp

（北海教区広報委員会メール）

北海教区公式サイト

http://www.hokkai-net.jp

● 編集・発行 ●

日本基督教団（キリスト）　北海教区

〒060-0807　札幌市北区北７条西６丁目
北海道クリスチャンセンター３F
E-mail：kanji@hokkai-net.jp
ホームページ：http://www.hokkai-net.jp/